

可塑剤工業会の考える昨今のプラスチック問題

可塑剤工業会

地球温暖化や資源エネルギー等の根本的パラダイムシフトを起こそうと、EUはGREEN DEALやCIRCULAR ECONOMYを打ち出し、世界を牽引しようとしています。そのような大きなうねりの中で、プラスチックが今、世界中で話題の一つに上ってきています。日本もその例外ではありません。

現時点で留意しなければならないことがあります。この課題にはいくつもの側面があり、一つの側面から議論されただけで簡単に解決されるような問題ではないということです。そのことを、三つの切り口で整理してみます。

まずは、**プラスチック製品が果たす日常的な役割**です。プラスチック製品のない生活など考えられるでしょうか。そして、それもプラスチック添加剤の技術のお陰といっても過言ではありません。

ここでは、**利便性の継続、プラスチック反対、プラスチック削減、代替グリーンプラ促進等の議論**があります。

次に、**プラスチック製品の安全性**です。日本では、プラスチック添加剤の一つである、例えば、フタル酸エステルは、国の食品器具・容器包装材のPL (Positive List) では、ある範囲内で使用が認められています。日本では化審法が化学物質のリスク管理を担っています。

ここでは、**化学物質の管理の強化等の議論**があります。

そして、**プラスチック製品が果たすライフサイクルを含めた有り様**です。このところ、**にできるはずのことがあまりできていない廃棄段階の実態が浮かび上がります。**

ここでは、**プラスチック製品の使い方、製品設計、廃棄物の削減、廃棄のあり方、海洋汚染、リサイクル技術促進等の議論**があります。

ごみを出さないで安全快適に資源物質が繰り返し生活に利用できる社会の実現を目指して、何をどうすればそのような目標に効率的に近づくのかが、現在、種々の立場の方々が諸処で議論されています。

プラスチック製品の製造に関わる立場で、添加剤メーカーにできることは、可塑剤業界にできることは何かを、可塑剤工業会は模索してまいります。

以上